

平成 26 年度 東京都内湾水生生物調査 6 月稚魚調査 速報

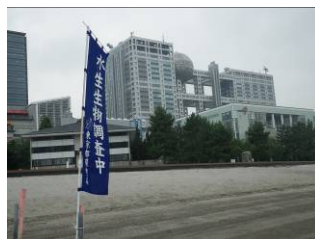
●実施状況

平成 26 年 6 月 26 日に稚魚調査を実施した。天気は晴もしくは曇りで、気温 22.6～27.8℃、風は弱く海は静穏であった。調査当日は中潮で、干潮が 10 時 21 分、満潮は 3 時 35 分、17 時 15 分であった(東京都港湾局のデータ)。

各地点とも、例年通りマハゼなどのハゼ類やボラなどが多く採取され、マハゼやボラは 4 月調査時に比べ体長が大きくなっていた。

水生生物調査実施中！

稚魚調査中は、写真ののぼりを掲げています。見かけた方は、お気軽にお声がけください。



2014/6/26	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	9:28-10:17	8:15-9:01	11:45-13:00
水温(℃)	24.5	22.7	26.8
塩分	10.9	13.4	4.0
透視度	50	64	15
DO(mg/L)	8.6	5.2	5.4
DO飽和度(%)	113	65	69
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH	7.3	7.5	7.5
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	潮干狩りをしている人はいなかった。 干潟ではコアジサシ 3 個体、ハジロクロハラアジサシ 1 個体が確認された。	潮干狩りをしている人はいなかった。 観光客が海岸を散歩しており、数グループ本調査を見学に来た。	波打ち際付近では、シオフキガイの死貝が多数確認され、周辺は腐敗臭が充満していた。(前日までの降雨による塩分の低下が原因と推定される)。

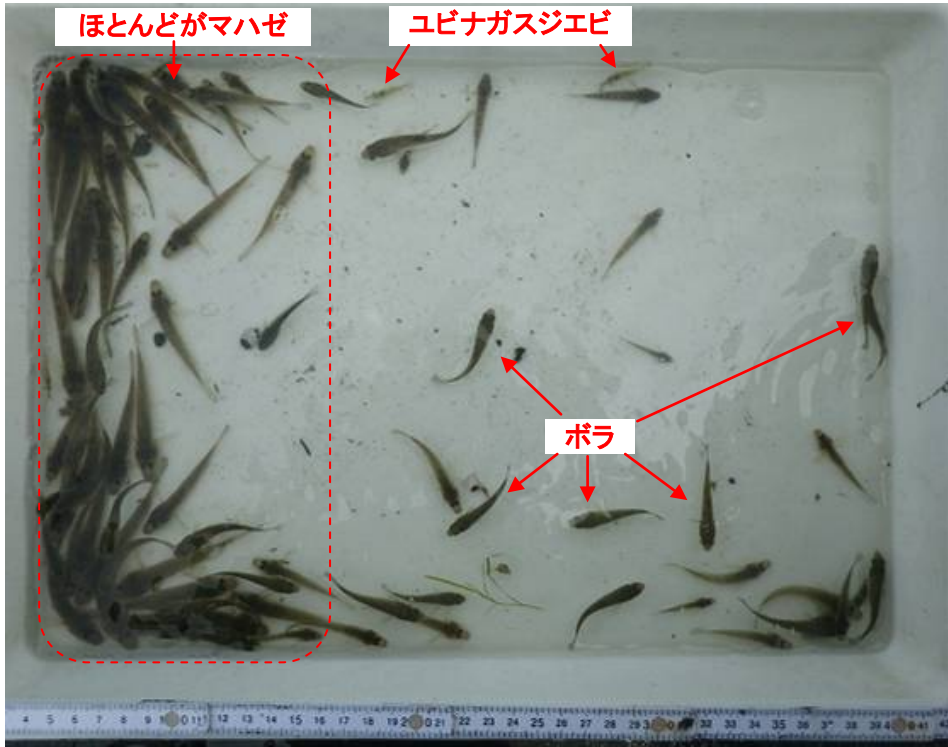
●主な出現種等 (速報のため、種名などは未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ(c)	ボラ(m)	ハゼ科(G)
	ボラ(c)	スズキ(c)	マハゼ(c)
	ヒメハゼ(r)	マハゼ(c)	ボラ(+)
		カタクチイワシ(r)	ビリンゴ(+)
		ヒメハゼ(r)	エドハゼ(+)
魚類以外	ユビナガスジエビ(r) タカノケフサイソガニ(r)	エビジャコ属(r)	ニホンイサザアミ(G) シラタエビ(+)
備考	他にアサリ、エビジャコ、アラムシロガイ等が捕獲された。	他にマルタ、ビリンゴが捕獲された。	他にコノシロ、マルタ、トラフグ等の稚魚、エビジャコ属等が捕獲された。また、大型のアカエイ 3 個体が入網し、現地にて放流した。

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



調査地点の様子



採取の様子

城南大橋西詰めにある干潟。
近くには東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等



マハゼ

東京湾を代表する魚のひとつ。
干潟域に着底した稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。



ボラ

内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚である。
干潟域には、早秋から夏にかけて滞在し、徐々に成長する。



ヒメハゼ

内湾の河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。

●周辺の状況



ユビナガスジエビ

汽水域に生息する小型のスジエビ類で、体長は5cm程になる。
外洋に面した潮溜まりなどでは、同じ仲間のイソスジエビがみられる。



タカノケフサイソガニ

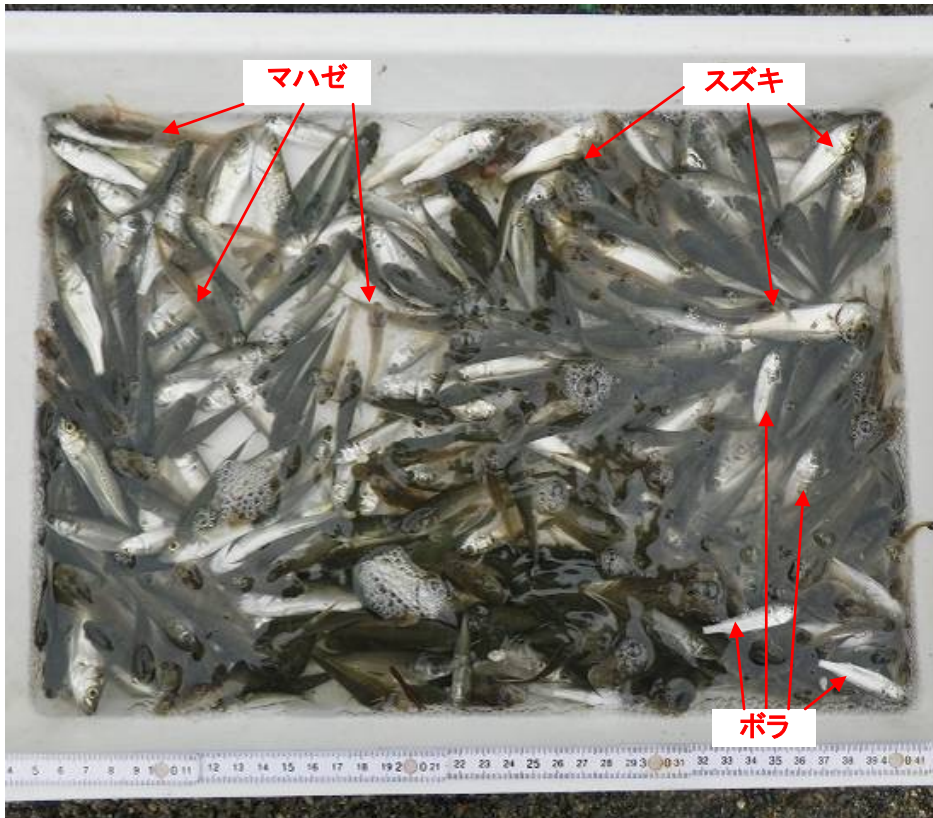
河口域や内湾の潮間帯の転石下等に生息し、東京湾では最も普通にみられるカニ類である。
甲幅は3cm程度になる。



ホンビノスガイ

調査地点の干潟では、殻長7cm程度の大型の個体が確認された。北米原産の外来種で、東京湾の湾奥の泥底やカキ礁周辺では多く見られる。食用にされている。

お台場海浜公園 採取試料



調査地点の様子



採取の様子

レインボーブリッジの袂にある人工の渚。背後には、東京臨海副都心の高層ビル群がみえる。

●主な出現種等



ボラ

内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚である。干潟域には、早秋から夏にかけて滞り、徐々に成長する。



スズキ

東京湾を代表する魚のひとつ。肉食性で口が大きく、横から見ると目の下付近まで達する。干潟域では、ハゼ科稚魚や小型甲殻類を食べて急速に成長する。



マハゼ

東京湾を代表する魚のひとつ。干潟域に着底した稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。4月調査時に比べサイズは大きくなっていた。



カタクチイワシ

東京湾の表層域では最も個体数の多い魚種であり、大きな群れをなして生活する。下顎が短く、上顎だけにみえることから、片口(かたくち)の名前が付いている。



マルタ

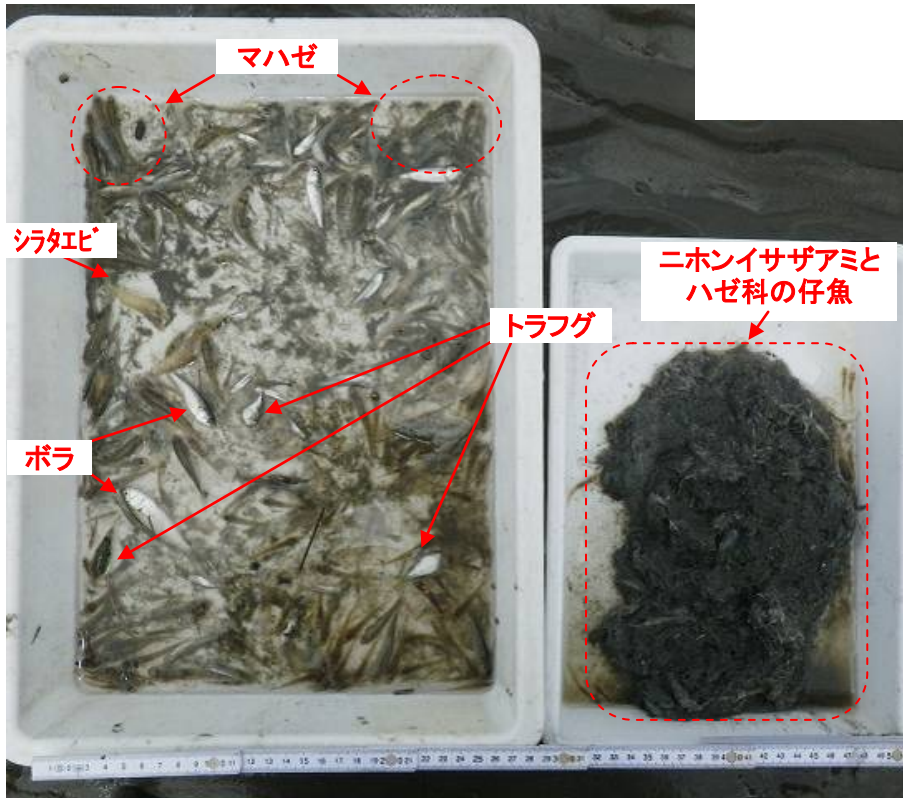
河口付近の干潟域では、4月下旬から5月上旬にかけて体長1~2cm程の稚魚が大量に出現する。干潟域には梅雨時から秋までの期間、体長5~15cm程になるまで滞在する。産卵は河川で行われる。



ピリンゴ

河川下流域から河口域におもに生息し、早春にアナジャコ等の甲殻類の巣穴に産卵する。中層を群れで泳ぎ、動物プランクトン等を食べている。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。一般の立ち入りは禁止されており、野鳥の楽園となっている。

●主な出現種等

ニホンイサザアミ、ハゼ科仔魚



ニホンイサザアミとハゼ科の仔魚が大量に捕獲された。ニホンイサザアミは、魚類や、鳥類等の餌となり、食物連鎖において植物プランクトン等生産者のエネルギーを上位の消費者に渡す重要な役割を果たす。

コノシロ



東京湾を代表する魚のひとつで、内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、ふ化した仔魚は内湾の干潟域などの浅所でもみられる。干潟域には体長 20mm 程になるまで滞在する(写真は体長 20mm 程度)。

トラフグ



全長 75cm 程になる大型のフグで、超高級食材として知られる。産卵期は春で、ふ化した仔魚は、河口、干潟域に接岸し、底生生物を食べ成長する。

●周辺の状況

シラタエビ



汽水域に生息し、スジエビ類よりも大型で、体長 7cm 程になる。触角が青く、額角(がっかく:頭の上面のトゲ)がトサカ状に盛り上がる。

アカエイ



小型地引網には大型のアカエイが 3 個体入った。尾部のトゲには毒があり大変危険なため、速やかに放流した。

シオフキガイ(死貝)



波打ち際付近では、数百個体のシオフキガイが死んでおり、周辺は腐敗臭が充満していた。前日までの豪雨で、塩分が低下したため死亡したと推定される。